

令和5年度 第2回博物館協議会 議事録

日 時：令和6年2月15日（木）14：00～16：00

場 所：八戸市博物館 2階 体験学習室

出席委員：9名

工藤竹久会長、滝尻善英副会長、元沢弘委員、有馬克美委員、平間恵美委員、川口桂子委員、工藤由貴子委員、出貝幸浩委員、蔦川誠委員

事務局：6名

小保内博物館館長、佐々木博物館副館長、下村南郷歴史民俗資料館長、米田主査、市川主査兼学芸員、野沢主査兼学芸員

次第

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 案件
 - (1) 令和5年度事業実施報告について
 - (2) 令和6年度事業計画について
 - (3) その他

※1～2省略

3 案件（1）令和5年度事業実施報告 質疑応答

（事務局説明後、質疑応答）

●会長

事務局から令和5年度の事業報告がありましたが、このことについてご質問はございますでしょうか。

資料1ページ、夏季特別展「業良キ物」の来館者が多かったようですが、お客様はどのような層が多かったのでしょうか。

○事務局

客層に偏りはなく、刀剣ファンの若い女性からお年を召した方まで幅広くお越しいただきました。

●会長

入館者が五千人を超えたということで、久々にいい数字だなと思って見ていました。

先ほどのスライドで、日本刀の原点、たたら製鉄の講演会に関する説明がありましたけど、この講演会の会場はどこになりますか。

○事務局

総合福祉会館の大ホールです。

●会長

資料に会場名がなかったので、次回から入れてもらえればと思います。

それから併催イベントに「ギャラリートーク」と「コレクショントーク」とありますが、この違いは何ですか。

○事務局

ギャラリートークは展示してある場所、入りから終わりまで全部の解説。

一方、コレクショントークは展示できなかった収蔵品を直接触ってもらったり、間近で見てもらいながら、解説するといった内容になっています。

●会長

展示品の説明ということではなくて、収蔵品を触らせて解説しているわけですね。

資料2ページ、特別展「J-mode」では岡本太郎と八戸の関係もかなりクローズアップさ

れていてすごいなと思いましたが、これは是川遺跡と関係があるのでしょうか。

○事務局

是川遺跡は戦後になってからですので、直接関係がないと思っています。

今回紹介しませんでした。岡本太郎はえんぶりに2回来ていて、当時の市長と市庁前にモニュメントを作ると約束をしていたようですが、結局実現しなかったというエピソードもあったようです。

●会長

新しい切り口でもう少しPRできそうだと思いますし、展示もすごくよくできていると思いました。物はすごくいいのだけれども展示スペースがなくて、苦勞しているような印象も受けましたが、担当者はそのあたりどう感じていますか。

○事務局

縄文時代は約1万年ありますが、縄文時代の多数ある出土品を限られた展示室のスペース内に展示品をいかに収めるかということで、展示の構成、ケースのバランスなどに配慮しながら準備を進めました。

●会長

出土品の素晴らしさは図録から伝わるけれど、見たときに展示品が多すぎて窮屈な印象を受けました。また特別展を担当することもあるでしょうから、そのあたりも考えてやっていただけたらと思います。

それでは、皆さまから質問がありましたらお願いします。

●委員

J-modeの展示を拝見しましたが、縄文土器のデザインの変遷が時代を追った並べ方で展示されていたので分かりやすくよかったですし、土器に残った縄文人の爪跡が見られて非常に興味深かったです。

私が展示を見に行った日、外国人観光客がいらっしやっていたのですが、英文解説がなかったためか、すぐに展示室を出ていったのを目にしました。展示内容が分からないのは当然だと思いつつも、せっかく興味を持って立ち寄ったのに何か気の毒だなと感じました。J-modeというタイトルから英語の解説があるのじゃないかなと入ってきたのだと思います。

博物館へは外国人観光客の方は結構いらっしやるのですか。

○事務局

正確な人数を今申し上げられませんが、結構いらしております。

是川縄文館に来た観光客が流れてくるパターンもありますが、おそらく米軍関係者が一番多いのではないかと感じています。

●委員

私が立ち寄ったのは紅葉シーズンで、その時は欧米やアジアからの観光客が来ていました。特別展など大きなイベントではインバウンド向けに英文解説があってもいいのかなと感じました。手間がかかることとは思いますが、感じた点一つだけです。

●会長

今はスマホの翻訳アプリもありますから、そちらを活用する方もいらっしゃるかもしれませんね。常設展の方は大丈夫ですよ。

○事務局

はい。一部ですが、対応済みです。

●会長

少しずつインバウンド対策にも取り組んでもらえればと思います。他に何かございますか。

●委員

資料5ページ「市民のための歴史講座」についてですが、今回は海をテーマに、杉山さん、小保内館長ともにいい内容の講座だったと思います。誰でも知っている文化財のことをより深く、より面白く、自分が担当した事業は写真も使って説明していて、非常に説得力がありました。

講演後の質疑応答についてですが、司会の方が「質問ありませんか」と聞いた時、すぐに質問は出なかったので、そこで終わればよかったのですが、その後に趣旨から外れたような質問が立て続けに出てしまい、お客さんが5、6人帰っていったのを目にしました。

講演を気持ちよく終わらせるためにも、そのような質問は個人的に聞きに行けばいいのにと感じておりました。今後は司会の方でうまく進行していただければと思います。

●会長

ありがとうございました。他に何か質問ございますか。

●委員

資料4ページに「博物館クラブ」と「おとなの博物館クラブ」がありますが、この二つはどういった違いがあるのか教えてもらえますか。

個人的に古文書・古典籍の講座は参加してみたかったのですが、イベント情報がどこに出ていたか分からなかったので、PRの仕方を考えた方がいいのかなと思いました。

●会長

事務局からお願いします。

○事務局

「おとなの博物館クラブ」は、「博物館クラブ」をもう一段階発展させた大人向けのイベントがほしいという要望を受けて始まったもので、大人向けに内容を難しくしてあります。

イベントのPRの方法ですが、広報はちのへ、X(旧ツイッター)、市ホームページなどに掲載しているのですが、必ずしも情報が欲しい人のもとへ届いていないと感じています。

●会長

他に何かございますでしょうか。

●委員

コロナ期間中の入館者数と、今年度の入館者数を比較すると、どのような感じでしょうか。市長の政策公約の一つ、子どもファースト事業の一環で、今年度から中学生以下無料したと思いますが、このことが入館者数に反映されているのか、お伺いします。

○事務局

資料12ページ、入館者数の資料を使って説明していきます。昨年度と今年度、12月末までの実績を比較すると、博物館は昨年度12,000人に対し、今年度は15,000人。根城の広場は昨年度19,000人に対し、今年度は21,000人。南郷は休館しておりますので正確には比較できないのですが、昨年度より増えております。

コロナ期間中を振り返りますと、令和2年度は博物館が11,000人、根城の広場が9,600

人と過去最低を記録しています。

参考までに、博物館のこれまでの年間の平均入館者数は約 23,000 人、根城の広場は約 17,000 人です。

昨年 12 月までの状況を見ると、博物館の来館者数は回復傾向にあります。広場は、史跡根城まつり単体のイベントで 6,000 人を記録していますので、それを除くと博物館とそう変わらない状況ではあるのですが、全国に百名城の根強いファンがいますので、ここ数年入場者が多い状況が続いています。

●会長

中学生以下無料についてはどうですか。

○事務局

あくまで感覚になりますが、親子連れの方が増えたかなという気がしております。隣の江南小学校の子だと思いますが、子どもだけで見に来るといった例も何件か目撃するようになりました。これはこれまでなかったことです。

●委員

一つ要望として、南郷島守地区には縄文土器初期の道具、狩猟用の土器とかを復元したのもありますので、それらを展示に活用してもらいたいと思っています。

●会長

資料 6 ページに、ボランティアガイドの館外研修で、鹿角民俗歴史資料館とありますが、参加されましたか。

●委員

日帰りでしたが、参加してきました。

参考になったのは鹿角です。よく考えたら、ここも南部領だったのだなと。また一つ考えさせられました。

●会長

秋田県だけ南部領だったと。

続いて、南郷歴史民俗資料館の事業についてご質問はありますでしょうか。

●委員

3年前までは南部バスが通っていましたが、現在は廃止になってしまいました。今は、バスに乗って南郷資料館に行く人が減ったと思います。ものすごくいいものを展示しているのですが、交通の便が悪いから行かないという方たちもいると思いますので、集客について考えてみればいいのではないかと思います。

●会長

はい、ありがとうございます。

●委員

特別展の入館者数 780 人とありますけども、これは始まって以来じゃないですか。

○事務局

すみません。比較していないので。

●委員

かなり多いですね。特別展の中ではずいぶん人気があったように見受けられます。ミニ S L 運行は実際に開催できたわけですね。

○事務局

はい。

●委員

悪天候で出来なかったのかなと思っていました。

○事務局

幸い当日は晴天に恵まれました。昨年は夏の暑さが厳しかったので、お客さんを日陰に誘導しながら、順番に皆さんに楽しんでいただきました。

●会長

資料館の駐車場を会場に開催したということでしたが、来館者の駐車場所は大丈夫でしたか。

○事務局

南郷コミュニティセンターの駐車場を案内しておりましたので、特に問題はありませんでした。

●会長

はい、わかりました。他に何かございますでしょうか。それでは令和6年度の事業計画に移ります。

3 案件（2）令和6年度事業計画について 質疑応答

（事務局説明後、質疑応答）

●会長

事務局から令和6年度の事業計画について説明がありましたが、今の説明に対して、何かご質問ございませんでしょうか。

●委員

資料1 ページ企画展のところですか。来年度は新収蔵資料展が2回に増えています。県重宝に指定された八戸南部氏の漆器がたくさん寄贈されたわけですね。なぜ今寄贈されたのか、その経緯が分かれば教えてもらえればと思います。

○事務局

なぜ今なのか、よく分かりません。

●委員

何か理由があったのですよね。県重宝のものが、今になって新たに見つかったというわけではないと思うのですが。

○事務局

以前から何度もお伺いして検分していました。

●委員

保存状態もよかったのでしょうか。

○事務局

あくまで県重宝は一つだったのですが、他にもたくさんお持ちだということで、一括で寄贈したいというご意向でした。

全部寄贈を受けるとするのは難しかったので、2回ほど調査に行って、物の選定をしたうえで受け取っております。保存場所の蔵が雨漏りするということでしたので、このあたりで手放そうと考えたのかと思っております。

●委員

分かりました。これを新収蔵展で展示するとかなりの数になりますか。

○事務局

このほかには、商売をお辞めになった南部美術さんからいただいた物がありますし、民俗資料も多数ございます。

●委員

民俗資料はどこからですか。

○事務局

個人の方になりますが、元宮大工の方から宮大工道具をいただいております。

膨大な量で、^{のみ}鑿だけで数百本もありました。それらを全部貫うわけにはいかないので、全点サイズなど調査した上で、セットとして必要な物のみをもらっています。

●会長

新収蔵資料が充実しているとのことですので、楽しみにしています。あと何かございますでしょうか。

●委員

市の大型公共施設に関するアンケートの結果を見ますと、施設情報の入手手段は、広報はちのへが1番目、2番目が新聞という状況になっています。広報はちのへはページが大分増えてきていますので、上手くまとめないと他の情報の中に埋没してしまいます。私は別の機会に、目次がないから全部見なければ内容が分からないという苦情を話したことがありますけれども、その件も含めて民間の行事と違って、博物館のイベントは年間の計画が立っているものだと思いますので、そのあたりを工夫していただければよいのかなと思っておりました。

歴史講座に行ってみると、大体高齢男性なので、おそらく広報を見てきた方が多いのではないかと思うのですが、ギャラリートークやコレクショントークも、もう少しお客さんが来てくれるとよかったのと思います。

イベントの日には館内に告知や掲示を掲示したり、館内放送で案内するなど、きめ細かくやってもらえれば、もう少しイベントに来る方が増えるのかなという印象を持ちました。

●委員

イベントを開催するときは内覧会を事前にやっていただいて、報道機関の皆さんに取材してもらうというのも有効かなと感じていました。

○事務局

市の大型公共施設に関するアンケート結果が昨年10月、新聞記事になりましたけども、その中で「PR不足」という意見を多数いただきました。正直なところ、職員は疲弊しながら、熱心にやっています。フェイスブックもX(旧ツイッター)もばんばんやっています。けども情報が届いていない。

何が原因かと分析しますと、そもそもの絶対数が少ないからだと考えています。フェイスブックに情報を出しても、広報はちのへに情報を載せても見てくれない。

その結果として、50数%の方が「そもそも博物館に来たことがないので、アンケートに答えられない」という状況になっています。

ここで何が重要かというところ、ここに来たことのない人を取り込む内容のイベントにシフトしていくこと。良くも悪くも博物館と関係を持つ人を増やさない限り、いくら発信しても無駄になります。今後はそのようなことに気を付けながらやっていきたいと考えております。

内覧会は、夏の特別展ではできませんでしたが、秋の特別展では新聞社2社に来ていただきまして、周知してもらっております。

ギャラリートークに関しては館内放送をかける時もあります。ただ当たり外れがあって、定員をオーバーする日もあるし、全然来ない日もあります。天候にも左右されることなので、そこはその日の巡りあわせという感じになります。

●会長

事業の種類が多い感じがしますので、何年かやって参加者が少ない事業は整理することもある必要と思っております。全体を通して何かございますでしょうか。

●委員

前の協議会で南郷歴史民俗資料館は今の場所だと限界があるのではないかという意見が出たことを覚えていて、私も共感していたところです。

南郷資料館の特別展のテーマは大変に面白くて、この場でも高く評価する声が出ていたと思います。課題は場所なのですが、今後もあの場所で維持し続けるのであれば、シャトルバスを道の駅から出して誘導するなど、来館者を誘導するための様々な方策を考える必要があると思っております。

南郷歴史民俗資料館のあり方を長期的に考えていく時期でもあるのではないかなと思います。

●会長

ありがとうございました。南郷の鉄道の企画なんかも、幼稚園や保育園の子どもたちが行ったら喜ぶのではないかなと思って見ていましたが、園児をバスなどに乗せて連れて行くということは現実的に可能なのでしょうか。

●委員

各幼稚園は園のバスをお持ちなので、できないことはないと思います。ただ問題は時間です。大体9時くらいに園に集まり、活動が始められるのは10時くらいですかね。昼は給食を食べて、午後2時に降園。帰りがもっと早い園もあります。そのような一日のスケジュールの中で、南郷に行って、展示を見学して、また戻ってくるという時間を考えると、子どもたちにとっては長いのかなと思いますね。

●会長

ありがとうございます。他に何かございますか。

●委員

学校の施設利用のことで質問になります。小中学校で平日学校として施設を見学に来ている数についてと、出前講座を活用している学校の推移について、分かる範囲で構いませんので教えていただきたいと思います。

○事務局

今は正確な数を申し上げられませんが、コロナの最中は出前講座が増えました。コロナが明けてからは、直接見学に来られる学校の数が増え、持ち直している状況です。出前講座は、えんぶり期間中はえんぶりに関する講座の要望が何件かありますので、一時的に開催回数が増えている状況ですが、教科書の単元に則った内容の講座は概ね横ばいです。

当館の他に青森県立郷土館さんも出前講座もやっておりますので、それを頼まれている学校も何校かあると考えております。やはり年間の行事予定に最初に組み込んでいただかないと、そもそも来られないので、年度末近くに出前講座を実施している学校は、何らかの事情で当初予定していた行事ができなかった埋め合わせでやっているのだらうと感じております。

博物館のホームページにメニューを載せていますし、年2回刊行の博物館だよりもメニューを載せて各学校さんにお渡ししておりますので、それに目を通していただいて早い段階で相談をいただくと対応しやすくなると思っています。

●委員

入館者数を増やすという意味でも、小中学校の児童・生徒に博物館って面白いところだということを経験させるのは大切だと思っていて、一番は一度来てもらって実際にいろいろな物を見せるってということだと思っております。

ただ、学校現場では、来年度以降、それが難しい状況というのが予想されています。まず、教員の働き方改革ということを言われており、授業以外の時間を取ることがなかなか難しくなっておりますし、2024年問題でバス借上げの価格が跳ね上がるだろうということが言われています。

はっふる隊の活用にも限界がありますので、私たちの学校では来年度どうしようかとさまざま議論しているところなのですが、やはり校外に出ていくのが難しい状況ですので、出前講座でもいいし、リモートでもよいので、何らかの方法で博物館とつながりを持つことを考えなければいけないと思っております。

○事務局

ありがとうございます。最新の教育指導要領では、校外に出て地域とどう結びつくかということが最初に出てくるのですが、それに逆行する状況が続いていて、非常に厳しい時代だと感じています。

●会長

難しい状況ですが、工夫次第では今まで難しかったものがやりやすくなっている部分もあるかもしれないですね。

●委員

この協議会に出させていただいて、まず圧倒的に職員さんたちのやることが多いのだなということ強く感じております。寄贈の物があればその調査に行くという話がありましたが、今いる職員の数でこなせる業務量ではないと感じました。

これはどこの施設も同じだと思いますが、本来やらなければならない仕事の分がかなり膨大だと思います。それに対して文化財にかかっている予算は圧倒的に少ないので、今後デジタル化に対応していくにしてもすごく大変な作業だと思うのですよね。

あとはカットできるところはカットしてもいいと思います。10組やそこらを集めるぐらいのイベントであれば、そもそも最初からやらなくてもいいとも思います。それだったらいっそのこと大きい親子向けのイベントを1回やって、そこで何千人来ましたと言った方が、むしろ手間的にもいいのかなと思いました。

私たちこどもはっちの方からも博物館に何かありますかというふうに持ち掛けていって、LINE でイベント情報を一斉配信するとか、そのような発信の仕方をこちらからやっていたかなければいけないなというのを感じました。

●会長

ありがとうございました。情報発信のあり方について、何となく明かりが見えるようですので、それを参考にして是非取り組んでいただきたいなと思います。

それでは、本日の案件は終了いたしましたので、会議の進行を事務局にお渡ししたいと思います。（以下、事務連絡等）